

2018年8月24日

## 2018年度 建設マネジメント委員会

### 研究成果発表会・将来ビジョン小委員会最終報告・表彰式

#### 報告書

運営小委員会

#### 1. 目的

土木学会 建設マネジメント委員会（委員長：木下 誠也）の研究成果の普及に資することを目的とし、2018年度の特別小委員会及び研究小委員会の活動から、次表に示すテーマに関して発表会を開催した。

#### 2. 概要

研究成果発表会の開催日時と発表プログラムは下表のとおりである。

表 建設マネジメント委員会 研究成果発表会（2018年度）発表プログラム

時間	発表テーマ	発表担当研究小委員会
13:00～13:05	開会の挨拶	建設マネジメント委員会:木下 誠也 委員長
■表彰式		
13:05～14:00	表彰式	
14:00～14:15	休憩	
■研究小委員会の部		
14:15～14:55	インフラ PFI/PPP 事業の VFM の源泉とそれによるマネジメント	インフラ PFI/PPP研究小委員会(第1種) 宮本 和明(パシフィックコンサルタンツ)、北詰 恵一(関西大学)、大西 正光(京都大学)
14:55～15:20	公共事業における技術力結集に関する研究中間報告	公共事業における技術力結集に関する研究小委員会(第1種) 木下 誠也(日本大学)、関 健太郎(国土技術政策総合研究所)、早川 裕史(長大)
15:20～15:35	建設・環境系問題事例における安全文化とマネジメントに関する研究(中間報告)	環境修復事業におけるプログラムマネジメント研究小委員会(第2種) 下池 季樹(国際航業)
15:35～15:50	休憩	
15:50～16:10	日本会計基準採用企業以外の特徴と工事進行基準の工事進捗度に関する一考察	工事進行基準研究小委員会(第2種) 山田 貴久(東京ガスエンジニアリングソリューションズ)
16:10～16:40	高い能力を有する技術者へのインタビュー実施状況(中間報告)	建設マネジメント力研究小委員会(第3種) 木下 賢司(熊谷組)
16:40～17:20	将来ビジョン特別小委員会成果報告～若手技術者が描く土木の将来ビジョン～	将来ビジョン特別小委員会 秀島 喬博(大林組)、郷田 智章(長大)、マエムラユウ(東京大学)、伊藤 昌明(オリエンタルコンサルタンツ)、堀 仁(建設技術研究所)
17:20～17:30	閉会の挨拶	運営小委員会:佐々木 政彦 小委員長

### 3. 表彰受賞者一覧

#### (1) 論文賞・論文奨励賞

##### 【論文賞】

論文名	執筆者	掲載論文集
高速道路における変状の発生特性と管理課題	梶間 厚邦 [西日本高速道路 エンジニアリング 中国株式会社] 小林 潔司 [京都大学大学院] 小濱 健吾 [大阪大学大学院] 貝戸 清之 [大阪大学大学院]	平成 29 年特集号 F 4 Vol. 73 (2017) No. 16
社会基盤施設の維持・修繕工事における専門工事企業の役割と制度設計	浜田 成一 [大阪大学大学院・ HAMADA 建設マネジメント研究所] 杉原 栄作 [玉石重機株式会社] 貝戸 清之 [大阪大学大学院] 水谷 大二郎 [大阪大学大学院]	平成 28 年通常号 F 4 Vol. 72 (2016) No. 105

##### 【論文奨励賞】

論文名	執筆者	掲載論文集
ターゲットコスト契約におけるペインゲイン方式導入の効果に関する理論分析	宋 政樹 [東京大学]	平成 29 年特集号 F 4 Vol. 73 (2017) No. 17

#### (2) グッド・プラクティス賞

取り組みの名称	取り組み実施者	発表行事
首都高速道路の大規模更新工事における「技術提案審査・価格等交渉方式」の試行採用	首都高速道路株式会社	平成 29 年 6 月 公共調達シンポジウム
府中市が進めるインフラマネジメントによる包括管理事業について	府中市 都市整備部管理課	平成 29 年 6 月 公共調達シンポジウム
インフラ再生技術者育成のための道守養成講座の構築と認定者の活用の取り組み	長崎大学 インフラ長寿命化センター	平成 29 年 12 月 研究発表・討論会

**(3) 優秀講演賞**

発表名	発表者	発表行事
首都高速道路の大規模更新工事における「技術提案審査・価格等交渉方式」の試行採用	磯部 龍太郎 [首都高速道路株式会社]	平成 29 年 6 月 公共調達シロジウム
府中市が進めるインフラマネジメントによる包括管理事業について	小林 茂 [府中市]	平成 29 年 6 月 公共調達シロジウム
ミャンマー国バゴー地域灌漑施設のコモンズ管理に関する調査研究	西澤 紫乃 [東京大学]	平成 29 年 12 月 研究発表・討論会
リスク評価に基づく道路施設の普及版維持管理計画モデルの試行と検証	森 啓明 [岐阜大学]	平成 29 年 12 月 研究発表・討論会
PFI 事業者選定における総合評価方式の課題と改善提案	大西 智樹 [東京都市大学]	平成 29 年 12 月 研究発表・討論会

※) 受賞者の所属は、発表時の所属

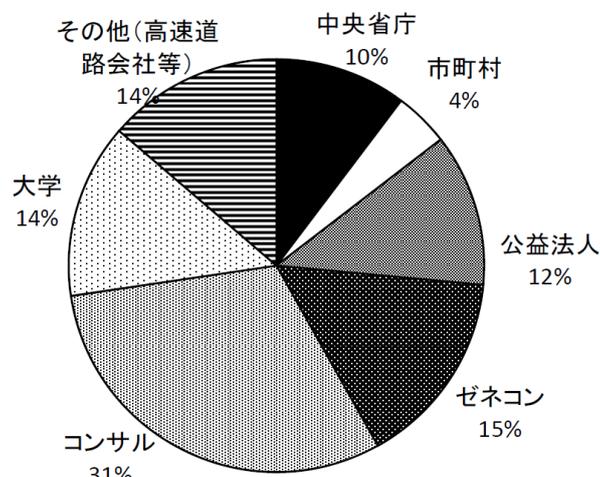
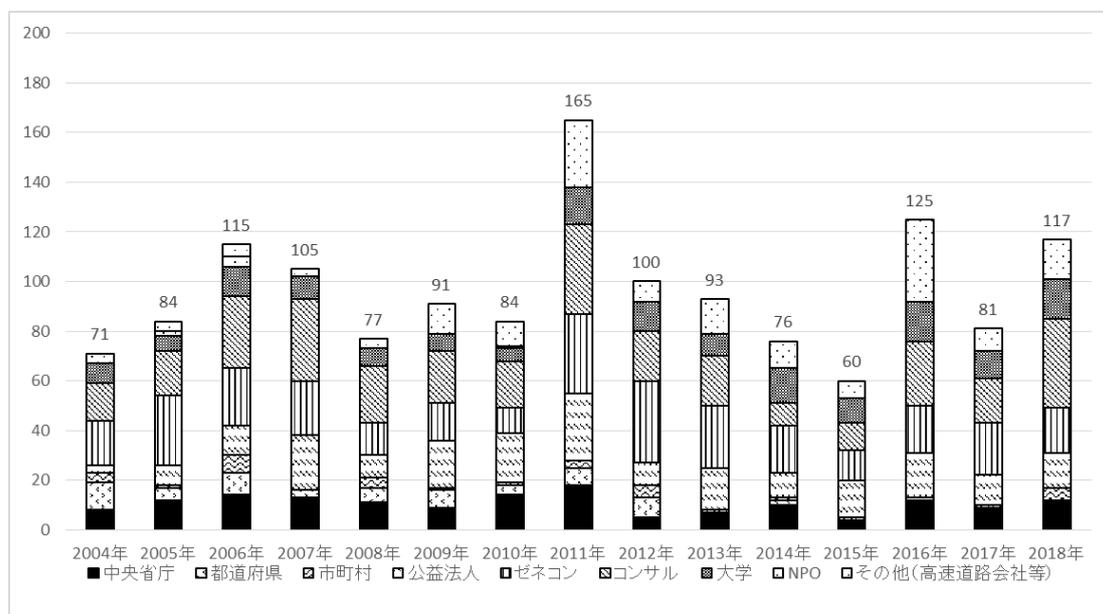
#### 4. 参加状況

成果発表会には、117名が参加した。参加者の内訳としては、コンサルタントが36名、ゼネコンが18名、大学が16名、公益法人が14名、中央省庁が12名、市町村が5名、その他16名であった。

<参加状況>

区分	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
中央省庁	8	12	14	13	11	9	14	18	5	7	10	4	12	9	12
都道府県	11	5	9	3	6	7	4	7	8	0	2	0	1	0	0
市町村	4	1	7	0	4	1	1	3	5	1	1	1	0	1	5
公益法人	3	8	12	22	9	19	20	27	9	17	10	15	18	12	14
ゼネコン	18	28	23	22	13	15	10	32	33	25	19	12	19	21	18
コンサル	15	18	29	33	23	21	19	36	20	20	9	11	26	18	36
大学	8	6	12	9	7	7	5	15	12	9	14	10	16	11	16
NPO	0	2	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
その他(高速道路会社等)	4	4	5	3	4	12	10	27	8	14	11	7	33	9	16
合計	71	84	115	105	77	91	84	165	100	93	76	60	125	81	117

2018年参加者属性 (N = 117) ※参加名簿より作成



<当日の様子>



## 5. 発表会に向けた取り組み等について

### (1) 発表会に向けた取り組み

- ・本年度の表彰式では、表彰小委員会において選定された「論文賞」2件、「論文奨励賞」1件、「グッド・プラクティス賞」3件、「優秀講演賞」5件を表彰した。
- ・本年度の研究成果発表会では、研究小委員会の成果発表として6つの発表を行った。
- ・過年度と同様に、本年度も会場参加者へ成果発表会に対するアンケート調査を実施した。詳細は「5. 発表会に向けた取り組み等について」および「6. 研究成果発表会アンケート調査結果」にて記す。

### (2) 発表会を終えて

#### <参加状況>

- ・本年は参加費を無料とした。
- ・「4. 参加状況」に示したとおり、参加者は117名であった。うち66名からアンケート回答を得た。

#### <回答者の年齢構成>

- ・例年通り、40代と50代が多く、全体の約7割を占めているが、20代・30代・60代もそれぞれ前年度並か微増の傾向にあった。

#### <参加者の印象>

- ・発表時間の長さについては、『ちょうどよかった』と回答された方が78%と多く、妥当な発表時間であったと考えられる。
- ・アンケート調査結果によれば、『大変参考になった』又は『参考になった』との回答が、82%を占めており、概ね参加者には好評であったと考えられる。

#### <その他>

- ・委員会活動に期待することとして沢山の意見が挙がった。今後の課題として検討したい。
- ・改善点と要望について挙がった自由意見について、改善できる内容については反映し、要望についても対応可能なものは進めていきたい。

(委員会活動に期待することとして挙げられた主な意見)

- もっと冊子を出してほしい。
- 研究成果の業界への発信。業界への諸外国の成功事例の発信
- インフラ維持管理の効率的な仕組みの構築
- 国際展開（建マネ分野のもの）に関する話題を増やしてもらいたい。
- 人材確保の面も考慮し、学生が参画できるような活動に期待したい。
- 将来ビジョンのさらなる発展的取り組み

- 委員会活動の広報の活発化
- 世間一般に対して、土木技術者の重責を伝える広報宣伝活動をして頂きたい。
- 若手の活動を広めたい。
- 先進的な取り組みの紹介や表彰する機会があるのはとても良い。継続してほしい。

(改善点と要望として挙げられた主な意見)

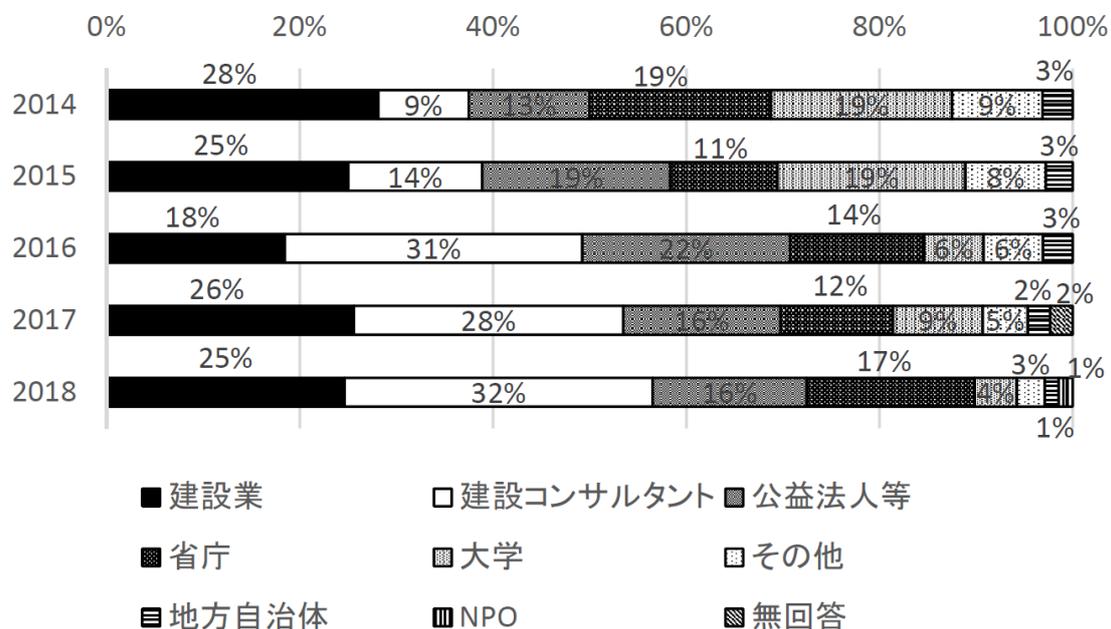
- 発表会を個別でも構わないので、もっと多く行ってもらいたい。
- 実践に活かすまでの道のりが長いテーマが多い。喫緊の課題に対する研究が増えることを期待。
- 発表資料は配布あるいは事前／事後にデータ公開してほしい。
- 議論の活性化のため、議論してほしい論点を提示してはどうか？

## 6. 研究成果発表会アンケート調査結果

### (1) 回答者の所属構成

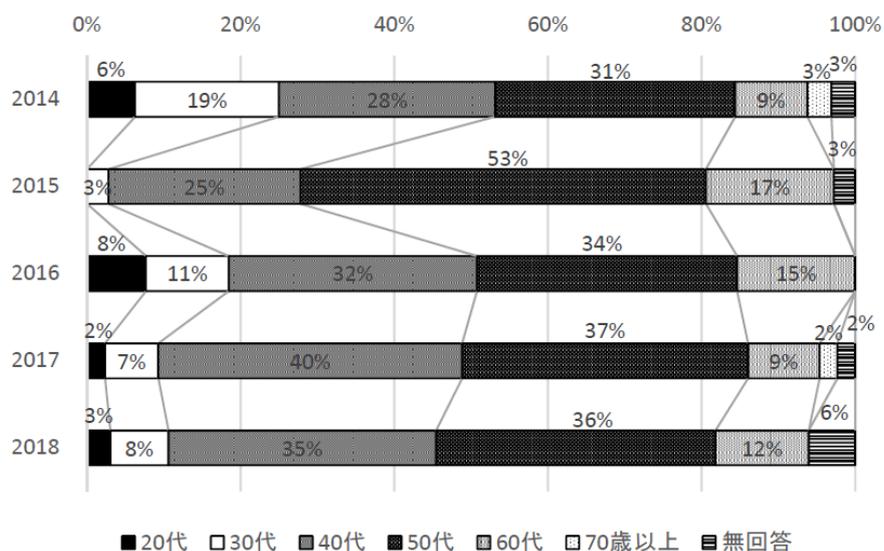
・アンケート回答者の所属は、「建設コンサルタント」が32%と最も多く、次いで「建設業」25%、「省庁」17%であった。

・前年と比べると、「建設業」、「省庁」の割合がやや増加した。



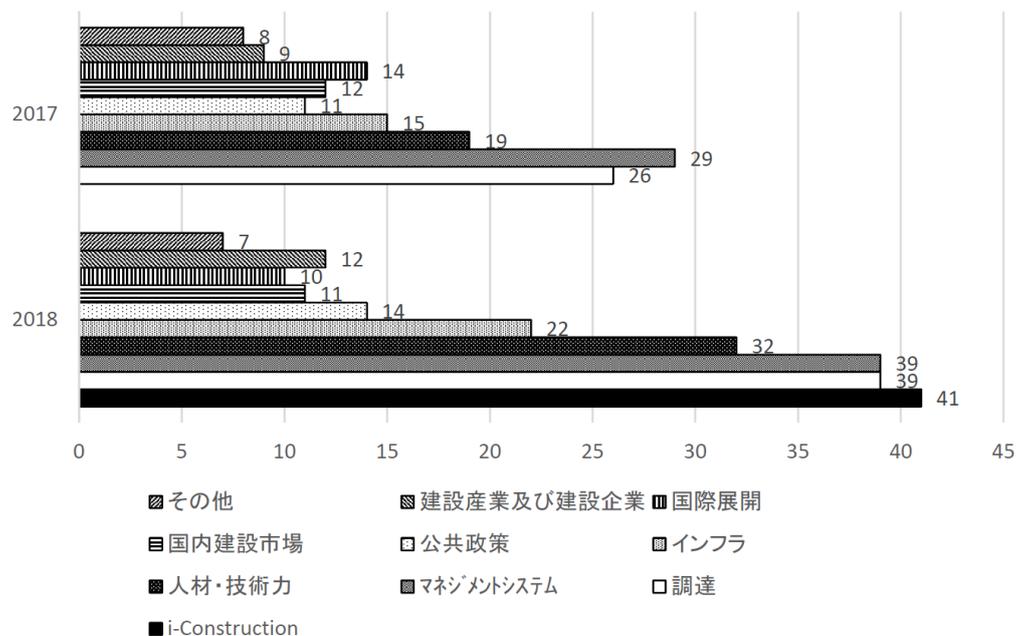
## (2) 回答者の年齢構成

・アンケート回答者の年齢は、「40代」(35%)と「50代」(36%)が大半を占めた。



## (3) 興味ある研究分野

・複数回答可として、興味ある研究分野を尋ねた。『i-Construction』(3D データ活用、CIM/BIM、ICT 施工、AI、IoT、自動化・ロボット化、生産性向上、平準化、等)を本年より選択肢に追加したところ、「i-Construction」(41件)、「マネジメントシステム」(39件)、「調達」(39件)が上位3つを占めた。

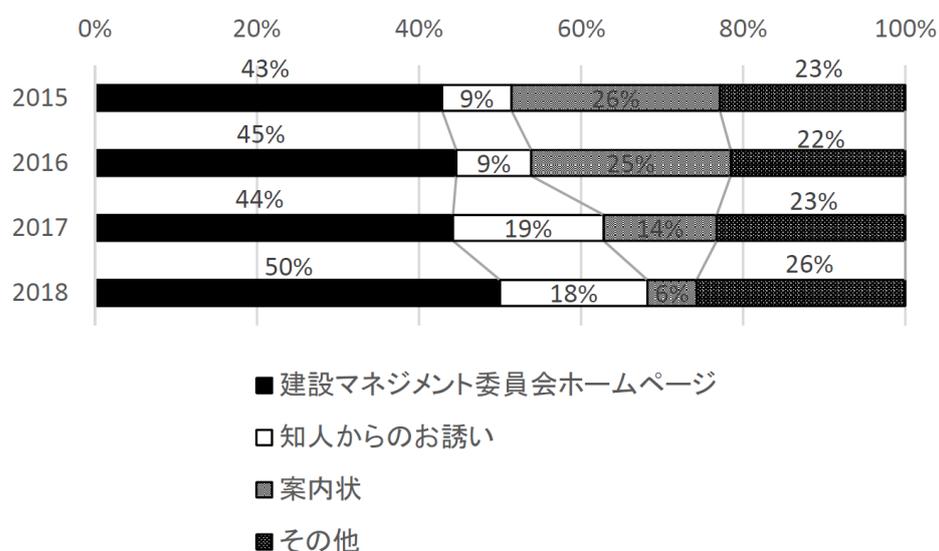


・当方の提示した研究テーマ以外にも、興味のあるテーマとして以下の自由回答を得た：

- インフラ維持管理
- 建設産業と AI、自動化ロボット化の行方について
- 働き方改革と生産性向上の行方について
- 一般の方に土木の良さを伝える技術（広報技術）に関する研究
- 観光先進国としての建設マネジメント事業、インフラツーリズム

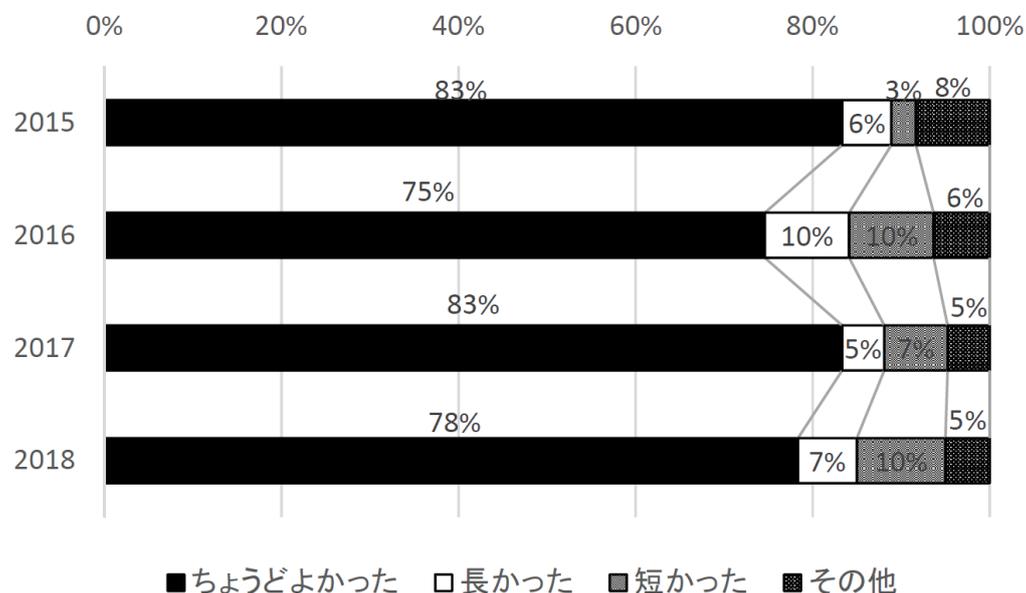
#### (4) 開催を知ったツール

・開催を知ったツールとしては、『建設マネジメント委員会ホームページ』が 33 名（50%）と最も多く、『知人からのお誘い』（12 名：18%）、『案内状』（4 名：6%）、『その他』（17 名：26%）と続いた。『その他』の具体的内容としては、建設マネジメント技術（雑誌）の告知欄、土木学会 HP、委員会・小委員会、等が挙げられていた（N = 65）。



### (5) 発表時間の長さ

- ・発表時間の長さは、「ちょうどよかった」が78%であった（N = 60）。



### (6) 参考になった発表

- ・参考になった発表としては、「公共事業における技術力結集に関する研究中間報告」、  
「将来ビジョン特別小委員会成果報告～若手技術者が描く土木の将来ビジョン～」が上位2位  
を占めた。

- 「インフラPFI/PPP事業のVFMの源泉とそれによるマネジメント」：27票
- 「公共事業における技術力結集に関する研究中間報告」：43票
- 「建設・環境系問題事例における安全文化とマネジメントに関する研究（中間報告）」：12票
- 「日本会計基準採用企業以外の特徴と工事進行基準の工事進捗度に関する一考察」：6票
- 「高い能力を有する技術者へのインタビュー実施状況（中間報告）」：31票
- 「将来ビジョン特別小委員会成果報告～若手技術者が描く土木の将来ビジョン～」：35票

- ・なお、「将来ビジョン特別賞委員会成果報告～若手技術者が描く土木の将来ビジョン～」に対しては、賞賛の声があげられていた。

— 最後の発表は感動しました。明日からの仕事のモチベーション向上につながる大変良いご発表でした。

— 若手の発表はとても良かった。

- ・その他の主な意見としては、次があった。

— 発表がうまくよいお手本になりました。

— 中間報告という位置づけの発表が多かったため、今後の活動及び報告の内容に期待

— テーマの多さに比して時間が短かったためか、内容が概念的・抽象的な感じがした。事例を絞って具体的に説明する手段も望まれた。

— もう少し、発表時間をとって頂き、研究の導入部分についての説明も入れて頂けるとより理解が深まったと思います。

— 現場で起こっていることを克明に記述するところから研究を進めていってほしい。特に失敗事例や失敗からどうやってリカバリーしたかを調べるのが重要と思う。

### (7) 参加した目的の達成度

・参加した目的を達成したかどうかについては、「大変参考になった」、「参考になった」が合計で8割を超えていた (N = 63)。

